

イナゴ グーグル携帯でサービス開始

音声認識の検索システム配布

飛躍カンパニー

会話の意味を理解し、自動的に答えを返すシステム「NetPeople (ネットピープル)」シリーズを構築している、イナゴ (iNAGO、東京都港区) は、スマートフォン (高機能携帯電話) ユーザー向けの市場開拓に乗り出した。スマホの利用が急拡大する中で大量の情報からユーザーが必要とする情報を素早く絞り込む技術が求められている。同社はグーグルの携帯電話向け基本ソフト「アンドロイド」搭載機に的を絞り、対話システムのデファクト・スタンダード (事実上の標準) を目指す。

ネットピープルは、ユーザー自身がスマホやパソコンなどに会話するように語りかけると、

絞り込まれた最適な情報をユーザーに返すシステム。

同社は、アンドロイド携帯向けに開発した「NetPeople : a」＝写真は携帯電話上の画面＝を、NTTドコモが発売している韓国サムスン電子製のスマホ「GALAXY (ギャラクシー) S II」対応版として、6月から配布を開始した。サムスン電子の携帯アプリ配布サービス「Samsung Apps」上から無料で配布を受けられる。

「NetPeople : a」を組み込んだギャラクシーに、「パーティーができる六本木の飲食店」のように語りかけると選び出された結果が表示される。返ってきた答えが多く、さらに絞り込みたい場合には「予算は4000円ぐらい」などと条件を追加していき、短時間に最適な情報にたどり着く仕組みだ。

従来のシステムは、音声認識

まではするものの「絞り込み機能」が不十分で、ときには数千件、数万件以上にも及ぶ大量の検索結果からユーザー自身がほしい情報を探し出さなければならなかったという。

同社は、人間と対話するように自動応答するシステムを中心にあらゆるサービスを結びつけるプラットフォームの開発を進めてきた。

これまで企業向けには、KDDIの「おしえてMissコンシェル」やアラザール工業「サポートナビ24」、ニッセンの「Q&A・ご利用ガイド」など企業ホームページの各種サービス案内役に、ネットピープルを提供してきた。

今回、スマホを通して、直接一般ユーザーが使える検索システムを市場に投入。「携帯やパソコン、ゲームや通販などのコンテンツプロバイダー、広告な



どを対話型プラットフォームのネットピープルで結びつけたい」(ロン・ディカルアントニオ

CEO)とユーザーが簡単に快適に情報を使える環境の構築を目指す。(広瀬洋治)

